

多摩ニュータウン諏訪・永山地区における高齢者のための居場所形成と その利用・認知に関する分析

A STUDY ON THE PLACES OF THE SENIOR CITIZENS IN SUWA-NAGAYAMA NEIGHBORHOOD OF TAMA NEW TOWN: FORMATION AND UTILIZATION

國上佳代*, 余錦芳**, 松本真澄***, 上野淳****

*Kayo KUNIGAMI, Chingfang YU, Masumi MATSUMOTO
and Jun UENO*

Based on the past of our researches, we have found out 10 places where senior residents spend the daytime in Suwa-Nagayama neighborhood of Tama New Town located in the west of Tokyo.

Two research methods are used in this study:

1. Observations of utilization of the 10 Places as well as a questionnaire survey of the users.
 2. A postal questionnaire survey of senior citizens, aged at or above 60 years old, living in the above mentioned area.
- According to the study, most of the users are above 65 years old, among them there are more females than males. Some of them use several places, while others use only one. After calculating the straight-line distances from the users' home to the 10 places, we categorized the places into three types: the Wide-area based type, the District type, and the Neighborhood type.

Keywords: *Newtown, Senior Citizen, Place, Community-Cafe*
ニュータウン, 高齢者, 居場所, コミュニティ・カフェ

1. 研究の背景と目的

東京西部, 多摩市, 八王子市, 稲城市にまたがる多摩ニュータウン(以下:多摩NT)は, 計画人口34万人の我が国最大のニュータウンである。戦後の経済成長に伴う都市部への人口流入による住宅不足に対応するため, 良好な住環境の整備と住宅の大量供給を目的として1965年に都市計画決定がなされ, 開発が始まった。初期入居は1971年に諏訪・永山地区で実現し, 爾来約40年の歴史を刻んでいる。住宅の老朽化や入居者の高齢化の影が忍び寄るが, 反面, 道路, 上下水道, ペDESTリアンデッキで繋ぐ緑のネットワークなどの都市インフラは優れて健全といえる。この既存都市建築ストックを賦活更新しながらいかに再生・活性化させることができるかを考察することが, 広く我が国の郊外型住宅都市の将来を拓く道を模索することに繋がると考え, 筆者らは多摩NTをフィールドとして多角的な研究を継続している^{1)~9)}。

多摩NTの高齢化について言及すると, 初期入居当時30歳代で入居した階層が継続居住をしているとすると, 今やリタイヤ世代・高齢期に入っているわけで, 今後の更なる急速な高齢化も懸念される。日本の高齢化率は現在22%であるが(2009.10.), 諏訪・永山地区平均は25%とそれを上回っている。中でも, 諏訪4,5丁目, 永山4,5丁目などの一部街区では高齢化率が30%を超えており(図1), 高齢化という意味でもモデル的な考察の対象地域と考えう

る。しかし, 国全体で要介護認定を受けている高齢者が16.7%¹⁰⁾であることなどから, 特に前期高齢者を中心に約8割は自立的な地域継続居住が可能な「元気高齢者」と考えられる。多摩NTの諏訪・永山地区では, 「引きこもり」や「孤独死」も少しずつ現実味を帯び始めてはいるが, しかし現時点ではまだ大部分が健全といえ^{3), 6)}, 安定的な地域継続居住を支援する仕組みを多角的に構築していくことが急務と考える。

ニュータウンでは, 下町や農村部のように昔からの地縁関係がある地域とは異なり, 居住者の多くが新たな環境に移り住んできている。こうした地域で高齢者が継続居住を果たしていくためには, 身近な場所に住民同士の交流や見守りができる, 身の寄せ場としての安心・安全な居場所が求められていると考える。継続的に多摩NTを見守ってきた筆者らの研究活動のプロセスで, 諏訪・永山地区には行政の他, 特定非営利法人(以下:NPO), 商店街, ボランティア団体, 町内会などが自律的に運営を行なっている「高齢者の居場所」が現在まで合計10カ所成立していることがわかっている。こうした事実から, 諏訪・永山地区は全国的にも先駆的な意味をもつモデルとなりうる存在と考える。本研究はこれら地域に多層的に構築されている高齢者の居場所が地域住民によってどのように利用され, どのように認知されているかを包括的に分析・考察し, 高齢者の地域継続居住支援システムを考えるうえでの一資料を提供するこ

* 三井ホーム(株) 修士(工学)

** 首都大学東京大学院都市環境科学研究科
都市システム科学域 博士後期課程・修士(都市科学)

*** 首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域 助教

**** 首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域
教授・工博

Mitsui Home Co., Ltd., M. Eng.

Doctoral Course, Graduate School of Urban Environmental Sciences, Tokyo Metropolitan Univ., M. Urban Science

Assistant Prof., Graduate School of Architecture, Tokyo Metropolitan Univ.

Prof., Graduate School of Architecture, Tokyo Metropolitan Univ., Dr. Eng.

とを目的とする。

2. 既往研究と本論文の位置づけ

多摩NT以外のニュータウンや住宅団地でも交流の場を目的とした様々な地域の居場所構築の試みが始まっており、これらについての調査研究が計画系論文集でも見られるようになってきている。張らは、千里ニュータウンの「ひがしまち街角広場」を対象として、運営日誌の分析やヒアリング調査によって、利用実態と利用者像を明らかにしている^{11), 12)}。続いて、田中らは、同所における運営実態や場所の設えについて、運営者の視点から分析を行っている^{13), 14)}。ニュータウン地区以外を対象とした研究として、松原らは大阪府営ふれあいリビング事業をとりあげ、交流の場所に必要とされる運営方法や地域との関係について論じている¹⁵⁾。さらに、東海3県において地域住民の居場所として開設された交流の場に注目し、空間構成と運営実態、支援体制に関する全般的な状況と関係性を把握した小松らの研究も注目される^{16), 17)}。

しかし一定地域内の運営形態や規模の異なる居場所を一体的に捉えようとした研究はこれまで見られない。こうした既往研究の動向に対して、本研究では、多摩NTの諏訪・永山地区を対象としてとりあげ、地域に多層的に存在する居場所の利用実態と相互利用の関係を把握し、さらにシニア世代の居場所の利用の実際と認知を把握するなどから、その利用構造を明らかにし、今後の高齢者の居場所づくりのための知見を得ることを目的とする。

3. 調査対象・概要

3.1. 高齢者の居場所の定義

本論で言う「高齢者の居場所」とは、行政やNPO、ボランティア団体などが開設し、高齢者に生涯学習・趣味活動、食事・喫茶、交流・情報交換などの機会と場を提供する場所を指すこととする。これらには若干の壮年層、青年層の利用や関与もあるが、継続的な調査から利用者の主体が高齢者である場合を定義づけた。

3.2. 調査対象：10カ所の高齢者の居場所の概要とその類型

前述のように多摩NTの諏訪・永山地区には高齢者の居場所が現在まで10カ所形成されている。その概要を図2に、立地場所を図1(Ⅰ～Ⅹ)に示した。

これらは、その運営内容・形式によって、以下の4類型に分けて

捉えることができると考えた。

①場所貸し型：生涯学習や趣味の活動のために申し込みに応じて部屋・スペースを貸し出すもの。〔西複合〕と〔東複合〕は、少子化による廃校校舎を活用し、市民の団体活動のために教室の貸出をしている施設で、週末を含み毎日運営している。運営に関与するのは受付・管理業務の1～2名(市の委託)であり、部屋の貸し出し以外には関与は行っていない。公民館の一角で運営する〔老人館〕は、入浴利用とサークル団体のための場所貸しを主としている他、定期的にイベントを開催し高齢者の集まる機会を提供している。市の直営施設であり、管理担当が2名常駐し、日々の運営管理と催しの企画を行っている。

②支援型：生きがいデイサービス事業によって、虚弱になりかけた高齢者の支援を行うもの^{4), 5)}。概ね65歳以上を対象に趣味や健康維持の活動などを行っており、スタッフがいつでも支援できる環



表1 高齢者の居場所10カ所の概要とその類型

施設	施設				管理運営主体	運営費	補助	利用者負担
	廃校校舎	公民館	商店街	集会所				
場所貸し型								
西永山複合施設	○				市が管理人委託	○	-	1日100円/1教室
東永山複合施設	○				市が管理人委託	○	-	1日100円/1教室
諏訪老人福祉館		○			市直営	○	-	-
支援型								
諏訪いきがいデイサービス		○			NPO:いきがいデイサービス事業	○	市の補助事業	利用料:400円.食費:600円 送迎:400円
永山いきがいデイサービス		○			NPO:いきがいデイサービス事業	○	市の補助事業	利用料:400円.食費:600円 送迎:400円
飲食提供型								
NPO法人福祉亭			○		NPO:ボランティア	○	UR家賃減額	飲食は有料(昼食500円)
わいわいショップ			○		商店街	○	UR家賃減額	飲食は有料
町内よりあい型								
Eラウンジ				○	UR・町内自治会	○	-	-
4丁目ラウンジ				○	町内自治会	○	市から補助金	-
5丁目ラウンジ				○	町内自治会	○	市から補助金	-

図1 多摩ニュータウン諏訪・永山地区の概要と高齢者の居場所

(Ⅰ～Ⅹの番号は図2参照)

表2 調査概要

居場所利用実態調査	目的	諏訪・永山地区における高齢者の居場所の利用実態を把握する。
	対象	西永山複合施設・東永山複合施設・諏訪老人福祉館・諏訪いきがいデイ・永山いきがいデイ・福祉亭・わいわいショップ・Eラウンジ・諏訪4丁目ふらっとラウンジ・諏訪5丁目ふらっとラウンジに訪れた高齢者(調査員の判断)。
	方式	各居場所にて活動内容の観察と、アンケートの配布・回収。(A4×1枚)
	調査日時	2009年11月14日(土)、17日(火) 14:00～15:00(居場所により1～2時間)
地域住民アンケート調査	調査内容	①性別 ②年代 ③利用頻度 ④住まい ⑤他の利用場所 ⑥活動内容
	回収	回収数310名、回収率71.4%
地域住民アンケート調査	目的	諏訪・永山にお住まいの60歳以上の方々の生活と、地域施設の利用状況・認知度を把握する。(多摩市高齢福祉課、東京都健康長寿医療センター研究所と協同)
	対象	諏訪・永山の60歳以上の居住者
	方式	対象者の中から無作為に3010名抽出。郵送式アンケート(A4×10ページ)。
	調査期間	発送:2009年10月15日(金) 回収締切:2009年10月30日(土)
地域住民アンケート調査	調査内容	①基本属性 ②外出行動 ③家族・近隣との交流 ④地域や行政の制度・政策について
	回収	回収数1538名、回収率51.1%

番号	I	II	III	IV	V																																																																																										
施設名称	西永山複合施設	東永山複合施設	諏訪老人福祉館	諏訪いきがいデイサービス	永山いきがいデイサービス																																																																																										
略称	西複合	東複合	老人館	諏訪いきデイ	永山いきデイ																																																																																										
外観																																																																																															
設立	廃校(1997年)から数年後/多摩市	廃校(1996年)から数年後/多摩市	1979年8月1日/多摩市	2003年/多摩市	2000年5月/多摩市																																																																																										
運営者	多摩市	多摩市	多摩市	特定非営利法人	特定非営利法人																																																																																										
所在地	永山3-12	永山3-9	諏訪5-4	諏訪5-1	永山3-12																																																																																										
サービス時間	グラウンド、テニスコート 9:00~18:00 上記以外 9:00~21:30	グラウンド 9:00~18:00 上記以外 9:00~21:30	月曜日~土曜日 9:00~17:00	月曜日~土曜日 10:00~15:00	月曜日~土曜日 10:00~15:00																																																																																										
利用条件	5人以上の団体(半数以上が市内在住、在勤、在学者)		概ね60歳以上の方	市内在住の概ね65歳以上の非介護認定者																																																																																											
運営類型	場所貸し型			支援型																																																																																											
サービス内容	スポーツや文化活動を行う団体を対象とした教室の貸出と、福祉サービスやボランティア活動等の支援の場の提供。	スポーツや文化活動を行う団体を対象とした教室の貸出と、ボランティア活動や子育て支援の場の提供。	談話や趣味などの交流の場の無料提供と入浴サービス。その他、昼食会(300円)・納涼会・文化祭・夏祭り等のイベントの場の提供。	健康維持活動や趣味活動、世代間交流の場の提供(利用料400円)。食事のサービス(600円)や送迎サービス(400円)も行っている。	健康維持活動や趣味活動、世代間交流の場の提供(利用料400円)。食事のサービス(600円)や送迎サービス(400円)も行っている。																																																																																										
情報発信	多摩市ホームページ	多摩市ホームページ	掲示板	毎月、新聞を発行、無料配布																																																																																											
平面図																																																																																															
調査日	2009年11月14日(土)、17日(火)	2009年11月14日(土)、17日(火)	2009年11月14日(土)、17日(火)	2009年11月14日(土)、17日(火)	2009年11月14日(土)、17日(火)																																																																																										
調査時間	13:00~15:00	13:00~15:00	13:00~15:00	14:00~14:30	13:00~13:30																																																																																										
利用人数	100人/87人	52人/46人	13人/25人	3人/5人	6人/12人																																																																																										
回答数/率	88人(男性66,女性18)/47.1%	83人(男性22,女性60)/84.7%	35人(男性10,女性24)/92.1%	5人(男性1,女性4)/62.5%	18人(男性4,女性14)/100%																																																																																										
利用者属性	<p>凡例 ■男性 □女性 ■不詳</p> <p>年代</p> <table border="1"> <tr><td>~59歳</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>60~64歳</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>65~74歳</td><td>20</td><td>20</td><td>20</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>75歳~</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table> <p>頻度</p> <table border="1"> <tr><td>ほぼ毎日</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>週に数回</td><td>20</td><td>20</td><td>20</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>月に数回</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>年に数回</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table> <p>住まい</p> <table border="1"> <tr><td>諏訪</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>永山</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>貝取</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>その他</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>					~59歳	0	0	0	0	0	60~64歳	10	10	10	0	0	65~74歳	20	20	20	0	0	75歳~	10	10	10	0	0	無回答	0	0	0	0	0	ほぼ毎日	10	10	10	0	0	週に数回	20	20	20	0	0	月に数回	10	10	10	0	0	年に数回	5	5	5	0	0	無回答	0	0	0	0	0	諏訪	10	10	10	0	0	永山	10	10	10	0	0	貝取	5	5	5	0	0	その他	10	10	10	0	0	無回答	0	0	0	0	0
~59歳	0	0	0	0	0																																																																																										
60~64歳	10	10	10	0	0																																																																																										
65~74歳	20	20	20	0	0																																																																																										
75歳~	10	10	10	0	0																																																																																										
無回答	0	0	0	0	0																																																																																										
ほぼ毎日	10	10	10	0	0																																																																																										
週に数回	20	20	20	0	0																																																																																										
月に数回	10	10	10	0	0																																																																																										
年に数回	5	5	5	0	0																																																																																										
無回答	0	0	0	0	0																																																																																										
諏訪	10	10	10	0	0																																																																																										
永山	10	10	10	0	0																																																																																										
貝取	5	5	5	0	0																																																																																										
その他	10	10	10	0	0																																																																																										
無回答	0	0	0	0	0																																																																																										

図2 諏訪・永山地区の高齢者の居場所と利用実態(1)

境にあることが特徴である。希望者には送迎のサービスも行っている。市の委託を受けるNPO法人の運営で、企画や活動の支援をそれぞれ3名程度のスタッフが行っている。諏訪・永山にそれぞれ1カ所ある。

③飲食提供型：食事・喫茶を有料で提供するとともに、囲碁・将棋、カラオケなどの趣味活動にも無料で場所を提供するもの。この内の「福祉亭」は、中核となるNPO運営者3名にその都度のボランティア3、4名が加わって運営を行っている。「わいわい」は、永山商店街有志の設立・運営によるもので、商店街有志の2名程度が常時当番制で運営にあたり、不定期のボランティアがこれを補佐する。

④町内よりあい型：町内の高齢者が気軽に立ち寄り親睦を深めるきっかけを設けようとするもの。永山に「Eラウンジ」、諏訪に「4

丁目ラウンジ」,「5丁目ラウンジ」の2カ所がある。町内自治会が運営主体となり、自治会中核メンバー3名程が運営にあたり、自治会スペースを活動の場として提供している。

尚、場所貸し型2カ所と支援型2カ所はそれぞれ少子化・児童数減少による廃校になった校舎を使用しており、飲食提供型2カ所は地域の購買力低下の影響を受けた近隣センター商店街⁹⁾の空き店舗を改造して利用している。この意味でも歴史を刻んだニュータウンの現状を象徴していると言えようか。

これらの活動場所、運営主体・形式、市の事業との関連等の概要を表1にまとめた。

3.3. 調査の概要

前述の研究目的に沿って、本研究では、①地域住民による居場所

番号	VI	VII	VIII	IX	X
施設名称	特定非営利活動法人福祉亭	わいわいショップ	Eラウンジ	4丁目ふらっとラウンジ	5丁目ふらっとラウンジ
略称	福祉亭	わいわい	Eラウンジ	4丁目ラウンジ	5丁目ラウンジ
外観					
設立	2003年4月/特定非営利法人	2006年4月/永山商店街	1996年9月/UR都市機構	2007年10月30日/多摩市	2009年3月7日/多摩市
運営者	市民ボランティア	永山商店街	UR・永山4丁目自治会	諏訪4丁目住民有志	民生委員・諏訪5丁目自治会
所在地	永山4-2	永山4-2	永山4-1	諏訪4-3	諏訪5-4
サービス時間	月曜日～土曜日 10:00～18:00 第4日曜日 13:00～16:00	13:00～17:00 (水曜・日曜祝日定休)	9:30～17:00	月曜日・第1,3金曜日・第2,4土曜日 13:30～16:30	土曜日 13:00～16:00
利用条件	特になし	特になし	60歳以上の高齢者	特になし	特になし
運営類型	飲食提供型		町内よりあい型		
サービス内容	食事(250～500円)の提供と趣味活動の場の提供。更に地域情報の発信とボランティアへの相談場所にもなっている	飲み物や軽食(50～100円)の提供と地域情報の発信。コンサート等不定期のイベント(500～1000円)を開催している	談話などの交流の場を無料で提供。	談話や趣味などの交流の場を無料で提供。季節毎にイベントを開催し交流を深めている。高齢者の安否確認の場にもなっている。	プログラムやイベントを中心に談話や趣味などの交流の場を無料で提供。高齢者の安否確認の場にもなっている。
情報発信	毎月、新聞を発行、無料配布	特になし	特になし	自治会の掲示板と回覧板	自治会の掲示板と回覧板
平面図					
調査日	2009年11月14日(土), 17日(火)	2009年11月14日(土), 17日(火)	2009年11月14日(土), 17日(火)	2009年11月14日(土)	2009年11月14日(土)
調査時間	14:00～15:00	14:00～15:00	14:30	14:00～15:00	14:00～15:00
利用人数(14日/17日)	19人/26人	3人/5人	0人/0人	13人/-	19人/-
回答数/率	41人(男性16,女性24)/91.1%	8人(男性1,女性7)/100%	0人/-	13人(男性7,女性6)/100%	19人(男性3,女性16)/100%
利用者属性	凡例 ■男性 □女性 ▣不詳				
年代	0 10 20 30 40 50(人)				
頻度	0 10 20 30 40 50(人)				
住まい	0 10 20 30 40 50(人)				

図2 諏訪・永山地区の高齢者の居場所と利用実態(2)

利用の実態調査[利用者側からの調査]と、②地域住民アンケート調査[地域住民側からの調査]、の2つの調査を実施した(表2)。

①居場所利用実態調査では、同日・同時間帯における10カ所一斉の観察調査と利用者アンケート調査を実施した。ある時間断面での当該地域における高齢者の居場所の利用状況を把握しようとするねらいによる。具体的には、平日及び土曜日の14時～15時の1時間における高齢者の活動内容の観察調査と、この時間帯の利用者に対する年齢、性別、居住地などの基本属性、利用頻度、他の居場所の利用等についてたずねるアンケート調査である(現場で配布・回収)。2日間でアンケート回答者は310名、回収率は71.4%であった。

②地域住民アンケート調査は多摩市高齢福祉課、東京都健康長寿医療センター研究所との協同で行った。外出頻度・場所、近所づき

あいなどの日常生活の様子、居場所や地域施設の認知度・利用状況を把握することを調査内容として、諏訪・永山地区の60歳以上の住民8,315名から無作為に抽出した3,010名にアンケートを配布し、1538名(回収率51.1%)から回答を得た(郵送配布・回収)。

4. 高齢者の居場所の利用実態

調査①:居場所利用実態調査は平日と土曜の2日間行ったが、調査結果には曜日による顕著な差異は見られなかったため、分析は2日間のデータを合計して行った。図2にアンケート調査による利用者概要をまとめた。

4.1. 各居場所における活動内容の概要

ここでは、観察調査の結果から各居場所の主な利用様態を示す。

{場所貸し型}の[西複合]では囲碁や麻雀、カラオケ、ダンス、陶芸、卓球、ふれあい開放教室等の計13の高齢者団体が活動しており、それぞれの団体の規模は数名～30名程度であった。[東複合]では麻雀、カラオケ、ダンス、陶芸、大正琴、マンドリンの計10団体が活動しており、各団体規模は5～20名程度であった。

同じく{場所貸し型}の[老人館]での調査日の団体利用は老人会の1団体のみで、利用人数は団体利用が16名、入浴利用(個人利用)が21名と、入浴利用者の方が多くみられた。

{支援型}の[諏訪いきデイ]、[永山いきデイ]では、それぞれ10～20名内外の利用者で、陶芸や折紙、絵手紙などのプログラムに沿った活動を行っていた。

{飲食提供型}の[福祉亭]は、室内が家庭的な設えとなっていて、食事・喫茶、飲酒の他に囲碁や麻雀の場所利用もあり、各々が自由に滞在している様子がみうけられた。一日平均50名程度の利用があり、調査日の各時間帯では概ね20名程度の利用客が居た。[わいわい]では、数名程度のお茶を飲みながらの談話など、喫茶店としての利用がなされていた。

{町内寄り合い型}のうちの[Eラウンジ]では、調査日の調査時間帯では2日間とも利用者は見られなかった(他の時間帯での若干名の利用は認められた)。
[4丁目ラウンジ]では10名内外の利用者がテーブルを囲み、お茶や持ち寄りのお菓子を飲食ながら談話をしていた。
[5丁目ラウンジ]では、20名弱がこの日のプログラムである折紙を中心とした活動をしてしたが、外で子どもと一緒に遊んだり、談話をするなどの自由な過ごし方がみられた。

以上、各居場所はそれぞれの運営形式によって、様々な居方の場所として利用されていることがわかった。

4.2. 利用者の基本属性と利用頻度

ここでは利用者アンケート調査の結果から、利用者の基本属性や利用頻度等について示す(図2)。

1) 性別: 居場所利用者は概して男性より女性が多いが[4丁目ラウンジ]では性別の偏りはなかった。一方、[西複合]では囲碁、麻雀の団体規模が大きく、それらの団体に所属する男性の利用が多く、75%を占めていた。

2) 年齢階層: 全体的には65歳以上の高齢者が多いが、特に[諏

訪いきデイ]、[永山いきデイ]では75歳以上の利用が多い。また[福祉亭]では年代による利用者の偏りはなく、幅広い年代の人に利用されていることがわかった。

3) 利用頻度: 概して、週に数回と回答する人が多かった。[西複合]と[東複合]では、ほぼ毎日または週に数回の利用をしている男性が多いことから、男性利用者にとってここでの活動が日常生活の一部となっていると推察された。

4) 居住地: 利用者の居住地は居場所によって異なる傾向がみられる。[西複合]、[東複合]では諏訪・永山以外の地域からの利用者も多い。これは、団体活動のできる部屋がこの両施設には多いことと、ダンスや卓球、テニスなどのスポーツを目的とした団体が体育館やテニスコートなどの利用のために他地域からも来訪しているためと考えられる。[老人館]、[諏訪いきデイ]、[わいわい]は諏訪、永山地区からの利用がほとんどである。[老人館]と[諏訪いきデイ]では立地している諏訪地区からの利用が多く、[永山いきデイ]や[福祉亭]では同じく永山からの利用が相対的に多い状況となっている。[4丁目ラウンジ]、[5丁目ラウンジ]は、町会運営であることから居場所のある諏訪地区からの利用のみであった。

4.3. 利用圏域からみた居場所の類型

アンケート調査による各居場所の利用者の居住地を町丁目または番地の中心点に代替し^{注1)}、居場所からの直線距離を計測した。あ

居場所	回答数	居場所										単独利用率			
		西複合	東複合	老人館	諏訪いきデイ	永山いきデイ	福祉亭	わいわい	Eラウンジ	4ラウンジ	5ラウンジ	その他	凡例	単独利用	複数利用
		0	50	100	(%)	(%)									
西永山複合施設	88	47	22	18	0	8	21	7	2	2	1	16	53.4%	41	
東永山複合施設	83		31	20	1	3	11	0	0	5	3	28	37.3%	52	
諏訪老人福祉館	35			5	4	2	11	8	1	4	33	3	14.3%	30	
諏訪いきがいデイ	5				3	2	1	0	0	1	3	1	60.0%	2	
永山いきがいデイ	18					7	4	3	1	0	0	2	38.9%	11	
福祉亭	41						27	5	1	3	8	6	65.9%	14	
わいわいショップ	8							1	0	0	4	0	12.5%	7	
Eラウンジ	-								-	3	0	0	-	-	
4丁目ラウンジ	13									3	2	2	23.1%	10	
5丁目ラウンジ	19										2	0	10.5%	17	

図4 居場所相互の利用相関

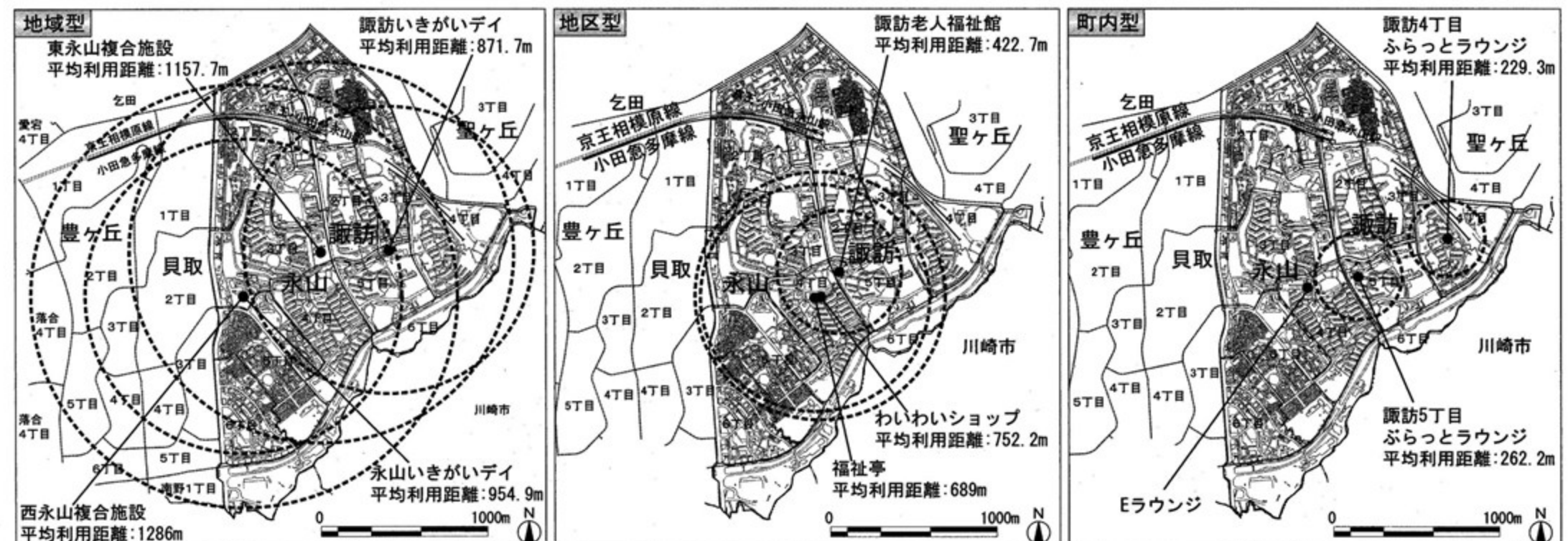


図3 利用圏域からみた居場所の類型

くまでも概略の距離であるが、各居場所利用者の居住地からの利用距離の平均値を求め図3に示す。

算出した各居場所の平均利用距離により、圏域が1,000mを超え諏訪・永山地区周辺に利用が及ぶ〔地域型〕、400～800m程度で諏訪・永山地区にほぼ圏域が収まる〔地区型〕、これより圏域が更に小さく利用者が居場所の近隣周辺に限定される〔町内型〕、の3つに分類できると考えた。

〔地域型〕の〔西永山〕、〔東永山〕は体育館などのスポーツ施設利用を目的として訪れるひとが居ることや、駐車場が確保できていること、などが広域からの利用につながっている要因と考えられる。2つの〔いきデイ〕は距離は1,000mに満たないものの、送迎サービスを行っていることから少し離れた地域からの利用もあることからこの類型に加えた。

〔地区型〕には〔老人館〕、〔福祉亭〕、〔わいわい〕が該当する。徒歩利用を主として利用者が諏訪・永山地区にほぼ収まっている。場所貸し型の〔老人館〕は同じ場所貸し型の〔西複合〕〔東複合〕より利用圏域が狭いが、体育館などの特別なスペースがないこと、近隣からの入浴利用者などが相対的に多いこと、などなどが要因と考えられる。

〔町内型〕の〔4丁目ラウンジ〕、〔5丁目ラウンジ〕は自治会が運営しており、利用条件は特に設けていないものの町内からの利用者が中心となっており、圏域は狭い。

4.4. 居場所相互の利用相関

利用者によって、ある単独の居場所のみを反復利用する者や、複

数の居場所を目的に応じて使い分けている者など、様々な利用様態があるものと考えられる。調査当日に居場所を訪れた利用者が地域の居場所を相互にどの様に利用しているのかを把握するため、各居場所において他に利用している場所を複数回答で質問した。図4にその結果をまとめた。縦軸、横軸の居場所を掛け合わせた位置の数値は、両方の居場所を利用している人数を表す。また、同じ居場所同士を掛け合わせた対角線上の位置の数値は、他の居場所を利用せずその居場所のみを利用している人数を表している。

これによると、〔西複合〕と〔福祉亭〕では、単独利用が利用者の5割を越えており、特に〔西複合〕の囲基団体に所属する男性利用者に多くみられる。これらの男性は利用頻度も高く、ここでの活動が日々の楽しみであり唯一の地域の居場所となっていることがうかがえる。〔福祉亭〕では、ここでの昼食を毎日の日課としていたり、支援ボランティアとの個人的なつながりで利用する人がいることから、特定の利用者にとっての地域の中のお気に入りの居場所としての存在となっていることがうかがえる。また、2つの〔いきデイ〕は利用者が相対的に高齢であることから、手厚い支援のあるこの居場所が好まれ、自立的な活動を行う他の居場所の利用が比較的少なくなっていると考えられる。

複数利用者の居場所相関をみると、〔西複合〕と〔東複合〕、〔西複合〕と〔福祉亭〕、〔老人館〕と〔5丁目ラウンジ〕の相互の利用者相関が強い結果となった。〔西複合〕と〔東複合〕に関しては、同じ場所貸し型の運営をしていることが要因であると考えられ、〔西複合〕と〔福祉亭〕に関しては、〔西複合〕を利用するカラオ

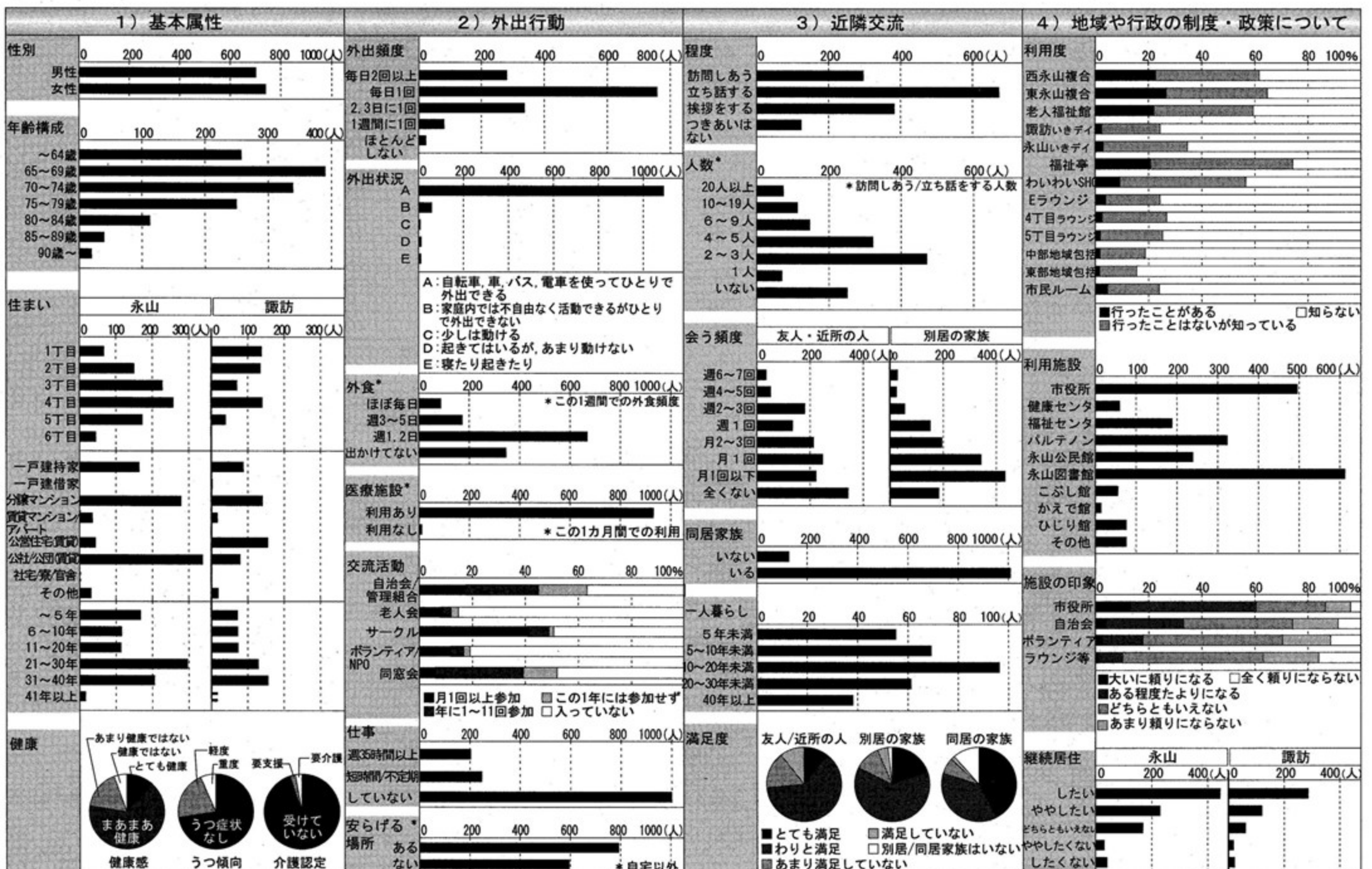


図5 アンケート調査回答者の基本属性と日常生活様態

	地域型			地区型						町内型																					
	場所貸し型			支援型			飲食提供型			町内よりあい型																					
	西永山複合施設	東永山複合施設	諏訪老人福祉館	諏訪いきがいデイ	永山いきがいデイ	福祉亭	わいわいショップ	エラウンジ	4丁目ラウンジ	5丁目ラウンジ																					
住まい	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%							
諏訪	1丁目																														
	2丁目																														
	3丁目																														
	4丁目																														
	5丁目																														
永山	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%				
	1丁目																														
	2丁目																														
	3丁目																														
	4丁目																														
	5丁目																														
近隣付き合い	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%				
	訪問しあう																														
	立ち話をする																														
	挨拶をする																														
	つきあいはない																														
人数	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%				
	20人以上																														
	10～19人																														
	6～9人																														
	4～5人																														
	2～3人																														
会う頻度	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%				
	週6～7回																														
	週4～5回																														
	週2～3回																														
	週1回																														
今後の利用	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%	0	50	100%				
	月2～3回																														
	月1回																														
	月1回以下																														
総数	行ったことがある	307	527	520	363	517	481	306	519	565	32	283	983	40	413	861	289	744	359	126	642	591	52	266	997	34	320	970	25	304	977
	知っている																														
	知らない																														

図6 居住地・近隣交流からみた各居場所の利用と認知（アンケート調査）

凡例 ■行ったことがある ■行ったことはないが知っている □知らない

ケ団体メンバーに「福祉亭」を利用していると回答した人が多いことから、知人のつながりによる相互の利用が多くなっていることがうかがえる。さらに、「老人館」と「5丁目ラウンジ」に関しては、相互の所在地が近接しており、近隣住民が二つの居場所を目的に応じて使い分けられているためと考えられる。尚、各居場所において「老人館」を利用していると回答する人が比較的多くみられたが、日常的な利用とは別に頻度は少ないものの館が催す展覧会、秋祭りなどのイベントに参加する人々も含まれるためであると考えられる。

これらの分析から、上述のように、ある特定の居場所のみを日常的に利用する者や複数の居場所を使い分けられている者などがあることがわかったが、後者の場合、相互の距離やその居場所を通じた人間関係などが要因・背景となっているものと類推された。

5. 地域住民の居場所利用と認知

5.1. 諏訪・永山地区住民の基本属性と生活様態

調査②で諏訪・永山地区の60歳以上住民に対して行ったアンケート調査では、基本属性や日常の外出行動、近隣交流等の基本事項について以下の1)～4)の項目を質問している。これらについて、図5に項目毎の集計結果を整理した。

1) 基本属性：男性、女性ほぼ同数の回答が得られた。回答者は65～74歳の前期高齢者が多い。居住地については、永山では戸建て持ち家・分譲マンション・公社・公団賃貸が多く、諏訪では分譲マンション・公営賃貸住宅が多い。また、居住年数は両地区において20～40年が多い。健康面は75%程度の人健康・うつ症状なしと

いう結果である。さらに、90%以上が要介護認定を受けていないという結果から、ある程度健康な自立高齢者が多いことがうかがえる。

2) 外出行動：外出頻度は、毎日1回外出している人が多く、少なくともほとんどの人が2～3日に1回は外出している。また、ほとんどの人が一人で外出できると回答している。外食の頻度は週に1～2日の回答が多い。医療機関はほとんどの人が月1回以上利用している。交流活動について、自治会や趣味のサークル、同窓会などには半数以上の人参加している。仕事は、現在していないという人が7割程度を占めている。また、自宅以外に安らげる場所については、半数以上が「ある」と回答している。

3) 近隣交流：近所の人との付き合いの程度は、立ち話をする程度が最も多く、次いで挨拶をする程度という回答である。訪問しあう仲ではなくとも、9割以上の人他者との何らかのつながりを持っているといえる。訪問しあう、または立ち話をする人数は2～5人が多く、反面、「いない」という回答も目立つ。会う頻度は、友人や近所の人、別居の家族ともに月に1回程度である。つきあいの満足度に関しては、友人・近隣・家族ともに75%程度が満足していると回答している。また、「同居家族がいない」の回答は約1割であるが、長年この地域に住み続けている方々と類推される。

4) 地域施設利用等：高齢者の居場所以外の地域施設の利用^{注2)}では、多摩市役所と永山図書館の利用が多く見られる。住民の居場所や地域施設に対する印象では、自治会やボランティア、NPO、ラウンジについて、「頼りになるともならないともいえない」という

回答が多い。継続居住の意向は両地区ともに「したい」という回答が多く得られた。

5.2. 居場所の利用と認知

アンケート調査では10カ所の居場所についての利用と認知の有無を質問している。利用度・認知度は、[西複合]、[東複合]、[老人館]、[福祉亭]で比較的高いが、その他の居場所の認知度は20～30%程度と低い結果となった。

各居場所に対する利用と認知について、居住地、近隣交流、今後の利用意向との関係をクロス集計した結果を図6に示した。

各居場所において、概して居場所が存在する地区での認知度が高い。特に、{町内よりあい型}に分類した3つのラウンジでは認知度、利用度共に居住地による差が顕著に表れている。一方、{地域型}の[西複合]と[東複合]は、地区の偏りはあまり見られず、広域から利用・認知がされていることがわかる。また[西複合]、[東複合]、[老人館]では認知がある人の中で利用したことがある人の割合が高く、2つの[いきデイ]や[4丁目ラウンジ]、[5丁目ラウンジ]では、認知はあるが行ったことがあるという人は少ない結果となっている。[いきデイ]は登録制であることや、高齢者施設という性格づけに抵抗を持つ人が少なからずいること、などが要因として考えられる。[4丁目ラウンジ]、[5丁目ラウンジ]は立地近辺以外の利用・認知は低く、設立からまだ日が浅いことや、小さな規模での寄り合い型の活動であるため、誰かのつてやつながりがなければ参加しにくい状況であると推察できる。しかし、同じ町内に居住しながら以前は知り合いではなかったがラウンジ参加をきっかけとして初めて交流し顔見知りの関係となるケースもあることから、{町内よりあい型}の狭小範囲の利用ではあるが、近隣関係が広がる可能性を持っているものと考えられる。

近隣づきあいと居場所の利用との関係においては、訪問しあう人がいると回答した人ほど、また、訪問しあう、または立ち話をする人数が多ければ多いほど、さらに、近所の人と会う頻度が多ければ多いほど、各居場所を利用したことがあると回答する割合が高い結果となっている。すなわち、近隣づきあいに積極的な人程、本研究でとりあげた居場所への参加の割合が高いと考えることができる。

今後の利用意向との関係についてみると、各居場所において、今後利用したいと回答した人の中では当該居場所の利用経験のある人が多くの割合を占めており、一度の利用経験がその後の利用意向につながるといえる。

6. まとめ

多摩NTの諏訪・永山地区には、行政、NPO、ボランティア団体、商店街、町内会などが自律的に運営を始めている高齢者の居場所が現在まで合計10カ所成立している。本研究ではこの全てを対象に利用の実際と地域住民による利用・認知の実態について包括的な分析を行った。要点を以下のようにまとめる。

- 1) 10カ所の居場所はその運営形式等によって、{場所貸し型}、{支援型}、{飲食提供型}、{町内よりあい型}に分類して捉えることができる。
- 2) {場所貸し型}のうち、廃校校舎を使っている[西永山]、[東永山]は、多くの貸室、体育館、駐車場を有していることもあり、

利用圏域は{地域型}であり、諏訪・永山の隣接区域からの利用も見られる。娯楽・趣味活動の場として機能しており、認知度は高い。ここをサークル活動などで頻度高く利用する常連利用者が多い。

3) 同じく{場所貸し型}でも[老人館]は、ここを拠点とするサークルや入浴利用の常連の居場所となっており、利用圏域は立地の近隣に限られる。ここが企画する展覧会や祭りなどのイベントによって認知の度合いは高い。

4) {支援型}の2つ生きデイは、やや虚弱になりかけた高齢者がスタッフに見守られながら一日を過ごす場所であり、利用者数や地域住民による認知の度合いは低いが、一定の支援が必要な高齢者にとっては貴重な居場所として機能している。

5) {飲食提供型}のうち[福祉亭]は、そのユニークな活動内容や商店街に位置していることもあり地域住民による認知度は高く、自由に過ごすことのできる居場所として常連利用者を中心として人気も高い。利用者はほぼ諏訪・永山に限られ{地区型}である。

6) {町内よりあい型}の3つのラウンジは文字通り町内会メンバーの利用が中心となり、近所同士が定期的に集まってくるつきあいの場所として機能している。認知と利用は立地場所周辺に限定される。

7) 利用者は自分のライフスタイルやニーズによってこれ等を選択して利用しているが、ある特定の居場所のみを日常的に利用する者や複数の居場所を使い分けている者などがある。複数利用の場合の居場所選択要因として、相互の距離やその居場所を通じた人間関係などが類推される。

8) 居場所の利用経験がその後の継続利用の意向に結びつく傾向があり、地域継続居住する高齢者に多様な機会を設けることの意義を類推させる。

多摩NTの諏訪・永山地区では、高齢者人口の増加や市民活動の活発化を受けて、新たな居場所拠点創りの兆しもみえている。今後も継続的に見守っていきたいと考えている。

謝辞

調査にご協力を頂いた各居場所の運営者、利用者、地域住民の方々に心より感謝申し上げます。筆者等のグループは、ボランティアとして、時に利用者として、又支援者としてこれらの居場所には継続的に関わりを持たせていただいている。特に[福祉亭]や[ラウンジ]の運営者には研究活動にご理解や貴重なご示唆を頂いている。これらの全ての方々へ、深甚なる敬意と謝意を表する次第である。

本研究の②アンケート調査は、多摩市高齢福祉課、東京都健康長寿医療センター研究所と協同で実施し、厚労科研費(H20-政策-一般-013)の助成を受けている。

注

注1) 個人情報保護の観点から、アンケート調査での居住地の問いは、丁目までにとどめた。

注2) 住民アンケート調査では、本研究の対象である10カ所の居場所の他

の多摩市内の主要な地域公共施設の利用の有無を尋ねた。このうち、永山公民館、永山図書館（永山駅周辺に立地）は徒歩15分程度と徒歩利用圏内にあるが、他は3～6Km程度の距離があり、バス・電車、又はタクシー・自動車などの利用を必要とする。

参考文献

- 1) 福本哲二, 山田あすか, 松本真澄, 上野淳: 多摩ニュータウン初期開発団地における住宅リフォームの実態に関する調査, 日本建築学会技術報告集, No.20, pp227-232, 2004.12.
- 2) 坊上南海子, 山田あすか, 上野淳: 多摩市における高齢者デイサービスセンターの運営プログラム・活動の実態と利用構造, 日本建築学会技術報告集, No. 22, pp409-414, 2005.12.
- 3) 加藤田歌, 松本真澄, 上野淳: 団地住宅における高齢者居住の様態と居住環境整備条件について—多摩ニュータウン団地居住高齢者の生活像と居住環境整備条件に関する研究 その1—, 日本建築学会計画系論文集, No. 600, pp9-16, 2006.02.
- 4) 鄭ソイ, 山田あすか, 上野淳: 自立高齢者の地域支援施設のあり方に関する考察—多摩市いきがいデイサービスセンターの利用実態と利用者の特性—, 日本建築学会計画系論文集, No. 608, pp35-42, 2006.10.
- 5) 鄭ソイ, 上野淳: 自立高齢者を支える地域環境整備の条件に関する研究—多摩市「いきがいデイサービス」利用者の地域生活に着目して—, 日本建築学会計画系論文集, No. 616, pp55-62, 2007.06.
- 6) 加藤田歌, 上野淳: 生活スタイルと住まい方からみた団地居住高齢者の環境整備に関する考察—多摩ニュータウン団地居住高齢者の生活像と居住環境整備に関する研究 その2—, 日本建築学会計画系論文集, No. 617, pp9-16, 2007.07.
- 7) 上野淳, 松本真澄, 崎田由香: 多摩ニュータウンにおける子どもをめぐる犯罪の発生実態と環境要因に関する考察, 多摩ニュータウン研究, pp50-55, 2008.03.
- 8) 近藤樹理, 山田あすか, 松本真澄, 上野淳: 多摩ニュータウンにおける子どもの屋外活動に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, No. 628, pp1251-1258, 2008.06.
- 9) 清原一紀, 松本真澄, 上野淳: 多摩ニュータウン近隣センター商店街の系譜と現状に関する考察, 日本建築学会技術報告集, No. 28, pp561-566, 2008.10.
- 10) 厚生労働省ホームページ公表, 介護保険事業状況報告, <http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/jigyo/m10/1005.html> (参照2010-5-20).
- 11) 張海燕, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 飯田匡, 大野拓也: 千里ニュータウンのコミュニティセンターに対する高齢者の利用意識, ニュータウンにおけるコミュニティ施設の体系的整備に関する研究: 日本建築学会計画系論文集, No. 583, pp23-30, 2004.9.
- 12) 張海燕, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司, 飯田匡: 新千里東町の「ひがしまち街角広場」の利用実態と利用者意識について—高齢社会に対応したコミュニティ施設の整備手法に関する研究—, 日本建築学会計画系論文集, No. 589, pp25-32, 2005.3.
- 13) 田中康裕, 鈴木毅, 松原茂樹, 奥俊信, 木多道宏: コミュニティ・カフェにおける「開かれ」に関する考察—主(あるじ)の発言の分析を通して—, 日本建築学会計画系論文集, No. 614, pp113-120, 2007.4.
- 14) 田中康裕, 鈴木毅, 松原茂樹, 奥俊信, 木多道宏: 日々の実践としての場所のしつらえに関する考察—「ひがしまち街角広場」を対象として—, 日本建築学会計画系論文集, No. 620, pp103-110, 2007.10.
- 15) 松原茂樹, 岩根敬子, 鈴木毅, 田中康裕, 奥俊信, 木多道宏: 大阪府ふれあいリビング事業の運営と連携—住民が運営する交流の場所と地域環境の関係に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, No. 636, pp347-354, 2009.2.
- 16) 小松尚, 辻真菜美, 洪有美: 地域住民の居場所となる交流の場の空間・運営・支援体制の状況—地域住民が主体的に設立・運営する交流の場に関する研究その1—, 日本建築学会計画系論文集, No. 611, pp67-74, 2007.1.
- 17) 小松尚, 辻真菜美, 洪有美: 設立者からみた交流の場の開設場所と運営および地域的つながりの相互関係—地域住民が主体的に設立・運営する交流の場に関する研究 その2—, 日本建築学会計画系論文集, No. 620, pp95-102, 2007.10.

(2010年6月10日原稿受理, 2011年1月28日採用決定)